

11/25 曙

病院利益率 6.9% 赤字に

20年度 コロナ補助金で黒字に

厚生労働省は二十四日、医療機関の経営状況を調べた[二〇二〇年度の「医療経済実態調査」]を公表した。

一般病院の一施設当たりの利益率は6・9%の赤字で、一九年度に比べ3・8%悪化した。新型コロナウイルス感染拡大による受診控えが響いた。コロナ関連の補助金を含めると0・4%の黒字になり、厚労省は「利益率の悪化を補助金で支えた」と分析している。

調査は二年に一度実施

し、医療サービスの価格を決める診療報酬改定の基礎資料となる。年末の予算編成に向け、政府、与党内の議論が本格化する。補助金は一般病院で一施設当たり平均約二億三千八百万円支給されていた。

一般診療所、歯科診療所、薬局は一九年度より悪化したもの、いずれも黒字を維持した。

頼みの経営は不安定」と訴え、医師や看護師の収入に直結する本体部分のプラス改定を求めている。

運営主体別では、医療法人が運営する民間病院は0

含めると
新型コロナ補助金を

病院ごとの利益率			
	2019年度	2020年度	
民間	1.8	0.1	2.3
公立	▲14.2	▲21.4	▲7.3
公的	▲0.2	▲3.0	5.4
國立	▲1.7	▲9.2	6.8

※厚生労働省調べ。▲は赤字、単位は%

・1%の黒字(一九年度比1・7%減)。不採算医療が大きく、特に公立は21・4%の赤字(同7・2%減)

で、コロナ補助金を含めても7・3%の赤字だった。

病院の医療従事者の平均年収は、病院長が約二千六百九十万円、医師が約四百六十八万円、看護職員は約五百六万円だった。

診療報酬は、医師らの技術料に当たる「本体」と薬の値段の「薬価」で構成される。十一月の予算編成で報酬全体の増減を示す改定率を決め、手術や検査などの個別価格を来年四月から変更する。

財務省は、医療費膨張を抑えるためマイナス改定を主張。医療団体は「補助金